



Title	SXview/GWS入門
Author(s)	中島, 重雄
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1995, 95, p. 26-41
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66084
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

SXview/GWS 入門

システム管理掛 中島 重雄
w60153a@center.osaka-u.ac.jp

はじめに

SXview/GWSは、ビジュアルシミュレーションシステムであり、科学技術分野における計算結果を可視化し、解析結果の理解を助けるためのものである。メニュー処理にもとづく対話処理型と、利用者がグラフィックプログラムを作成するためのFORTRANサブルーチンライブラリから構成されている。

SXview/GWSが利用できるのはセンター2階・第2TSS室に設置しているグラフィックワークステーション IRIS/Onyx ホスト名 "cconyx01" である。

SXview/GWSでは、スーパーコンピュータ SX-3R とグラフィックワークステーションとのネットワーク環境のもとで動作するクライアントサーバ利用（分散処理が可能）と、グラフィックワークステーション単体利用があるが、ここでは単体利用についての簡単な操作方法について説明をおこなう。詳細については、つぎのマニュアルを参考にしていただきたい。

1. SXview/GWS・IMG 利用の手引き<ライブラリ編> GUY 32-4
2. SXview/GWS 利用の手引き<対話処理編> GUY 31-3

1. 環境設定

ここでは、SXview/GWS「以下、GWSとする」を利用するための環境設定について説明をおこなう。

GWSを利用するにはカレントディレクトリ上に置いておかなければならぬ必要なファイルがある。なお、ホームディレクトリ上の環境設定ファイルの変更も必要である。

① 必須ファイル

SXVIEW	GWS対話処理起動シェル
SXVSY S	システム既定値ファイル
SXVSY S. LOAD	ファイルローダ・セットアップファイル
SXVMA IN. M	メインメニュー・セットアップファイル
SXVV SUL. M	グラフメニュー・セットアップファイル
SXVAN I M. M	アニメーションメニュー・セットアップファイル
SXVIMAG. M	画像データ・セットアップファイル
SXVCLIE. M	クライアントメニュー・セットアップファイル
SXVSTUP. M	セットアップメニュー・セットアップファイル

② 環境設定ファイル

ホームディレクトリ/.xsession
ホームディレクトリ/.Xdefaults

この2つのファイルに次の設定を追加する必要がある。

.xsession .Xdefaults

XENVIRONMENT=\$HOME/.Xdefaults
export XENVIRONMENT

*Background:#E800E800E800
4Dwm*sxvsub*clientDecoration:none
4Dwm*sxview*clientDecoration:none

1-1. 環境設定コマンドの実行

GWSを利用する上での必須ファイルのコピーと内容追加が必要なファイル設定をおこなうコマンドの実行方法を次に示す。

① cconyx01 にログイン

② GWS用ディレクトリの作成 ※アンダーラインは入力を示す

```
cconyx01% mkdir GWS ..... ディレクトリGWSを作成する。(この名前は何でも良い)  
cconyx01% cd GWS ..... チェンジディレクトリをおこなう。以降の操作はこのディレクトリ上  
でおこなう。
```

③ 環境設定ファイルのコピーコマンド実行

```
cconyx01% /usr/local/bin/setgws
```

【参考】

必須ファイルは、/usr1/guest/sxview/GWS 下にある。また、.xsession,.Xdefaults は
/usr1/guest/sxview/GWS-kankyou 下にある。

1-2. SXVSY S (システム既定値ファイル) の修正、及び確認

上でコピーしたSXVSY Sファイルの内容を利用者の環境に合わせて修正をおこなう。

Error Message File :/sxview/sys/SXVERR.DAT ①
Error OutpuFile :errlog ②
Kanji File :/sxview/sys/SXVKNJ.DAT ③
IMF Directory :./imf ④
.....	
.....	

- ① SXviewで提供するエラーメッセージファイルのパス名(固定)
- ② SXviewから出力するエラーメッセージを出力するファイルパスを指定する。
"NULL"を指定すると標準出力(装置6番)される。(利用者任意)上記ではパスが設定されていないので、
カレントディレクトリに"errlog"と言うファイル名でエラーメッセージがSXviewより出力される。
- ③ SXview/IMGを用いてテキスト/漢字を描画する場合の漢字ファイルのパスを指定する。(固定)
- ④ IMFファイルを格納するディレクトリのパス名を指定する。(利用者任意) この例ではカレントディレクトリGWS下のimf
ディレクトリとなっている。
※IMFファイルとはSXviewライブラリによって作成された図形イメージデータファイルである。

1-3. SXVSY S. LOAD (ファイルローダ・セットアップファイル) の修正、及び確認

利用者のカレントディレクトリにコピーしたSXVSY S. LOADファイルの内容を利用者の環境に合わせて修正する。

Error Message File :/sxview/sys/SXVERR.DAT ①
Error OutpuFile :loader.err ②

- ① SXviewで提供するエラーメッセージファイルのパス名(固定)
- ② SXview(sxvloader)から出力するエラーメッセージを出力するファイルパスを指定する。
"NULL"を指定すると標準出力(装置6番)される。(利用者任意)
上記ではパスが設定されていないので、カレントディレクトリに"loader.err"と言うファイル名でエラーメッセージが
SXviewより出力される。

1-4. 以上で環境設定は終了したので、一旦cconyx01からログアウトをおこない再度ログインをやりなおす。

2. GWSの起動

環境設定でコピーしたSXVIEW (起動用シェル) の実行をおこなう。

```
cconyx01% cd GWS  
cconyx01% SXVIEW ..... 必ず大文字で入力
```

これにより次図のようなGWSウインドウが表示される。

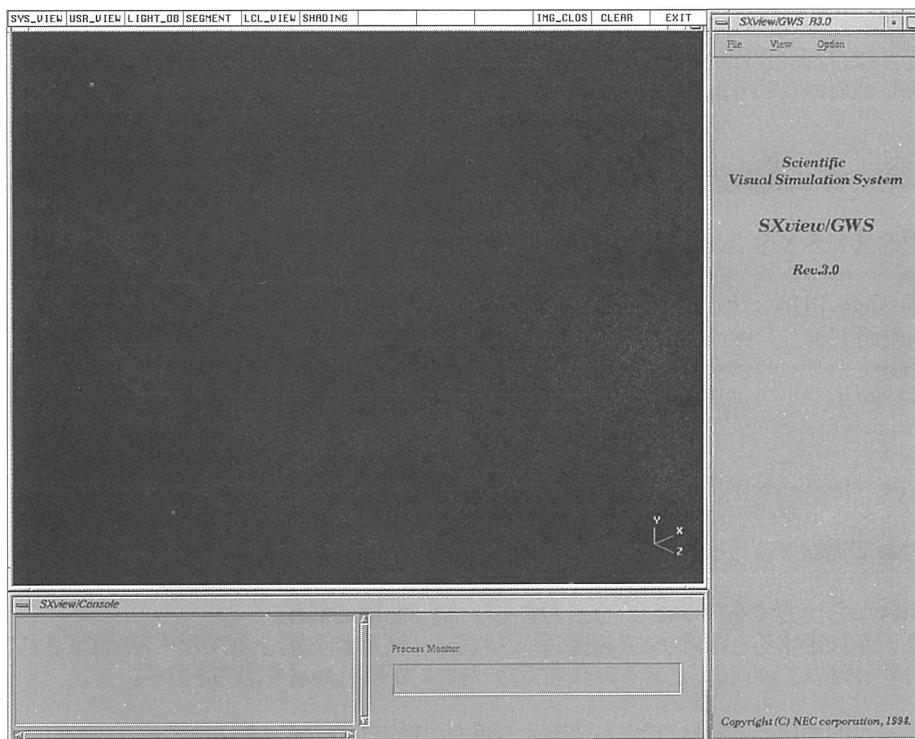
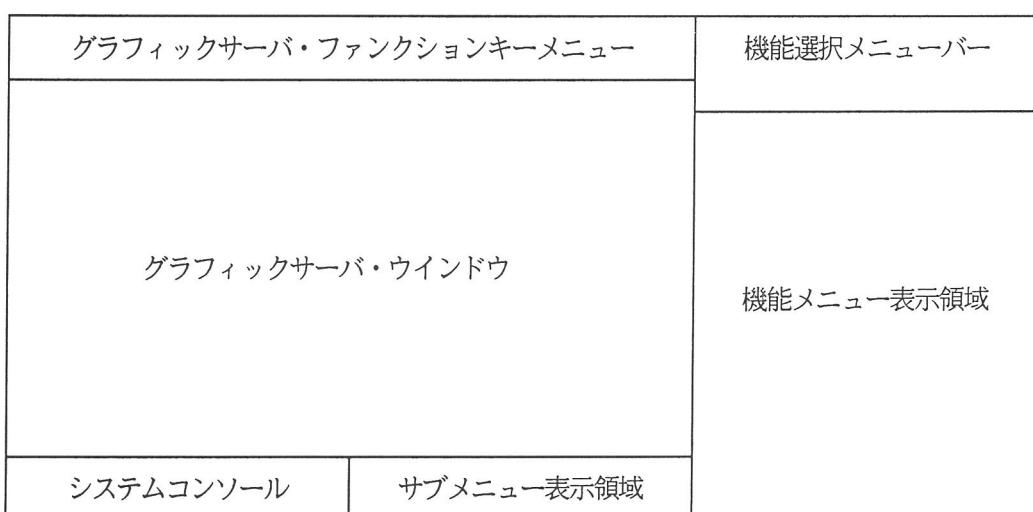


図1. GWSウインドウ

このGWSウインドウはつきのような画面構成からなる。

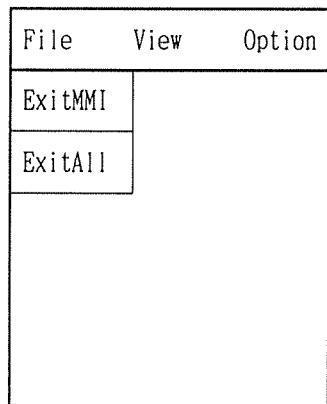


3. 機能選択

機能選択メニューバーの、[File View Option] のいずれかにマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示される。

3-1. 機能選択メニュー"File"

GWSの終了メニューとなる。



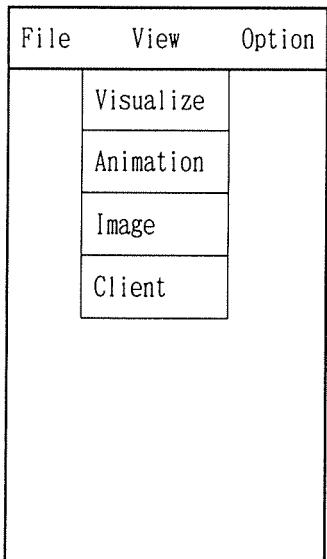
ExitMMI : 対話処理システムの終了
マウスクリックされると、Onlyx側対話処理が終了する。

ExitAll : 対話処理システムの終了（全プロセス）
マウスクリックされると、Onlyx側対話処理とSX-3側のファイルローダ、作図モジュールの終了処理がおこなわれる。

Onlyx単体で利用している場合は、どちらの終了方法を指定してもかまわない。

3-2. 機能選択メニュー"View"

Viewでは作図を行う。ここをマウスクリックすると下図のイメージで作図メニューが表示される。



Visualize : SXview形式のデータファイルをVisualizeのサブメニューで選択した表示方法で図形を描画する。

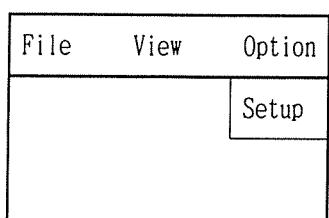
Animation : Visualizeでシステムに取り込まれた図形データを利用してアニメーション機能の設定、実行をする。

Image : SXviewライブラリ (Fortranサブルーチン) を使用して作成したイメージファイルを表示する。

Client : SXviewライブラリを使用した図形描画プログラムを実行する。

3-3. 機能選択メニュー"Option"

Optionでは、SXview対話処理でのカスタマイズが行える。ここをマウスクリックすると下図のイメージでメニューが表示される。



Setup : マウスクリックされると、セットアップメニューが表示される。

詳細は、「SXview/GWS 利用の手引き GUY31-3
「5. 13 セットアップメニュー」を参照。

4. 作図

機能選択メニュー"View"で、Visualize, Animation, Image, Clientのいづれかを選択する。つぎに、これらの操作方法についてサンプルデータを示しながら説明をおこなう。

- 4-1. Visualize
- 4-2. Animation
- 4-3. Image
- 4-4. Client

4-1. Visualize

本機能はSXview形式^{参考1}、MOVIE-BYU形式^{参考2}の解析データファイルを読み込み、指定した描画方法で図形を表示する。本機能で描画された図形はローカル操作^{参考3}が行える。
描画方法には以下のものがある。

Contour	:	等値線図
Isosurface	:	等値面図
Vector	:	ベクトル図
StreamLine	:	流線図
ParticleAdvection	:	粒子追跡図
FlowRibbon	:	リボン図
VolumeRendering	:	ヴォリュームレンダリング ^{参考4}

【参考1】 SXview形式

SXviewサブルーチン(SFW**)をFortranプログラムより利用することで作成されるSXview標準形式の解析データファイル。
サブルーチンに関してはマニュアルを参照。

【参考2】 MOVIE-BYU形式

Bri gham Young Universityで開発されたファイル形式。
利用者がMOVIE-BYU形式の解析データファイルを作成した場合、対話処理で直接読み込むことが可能。

【参考3】 ローカル操作

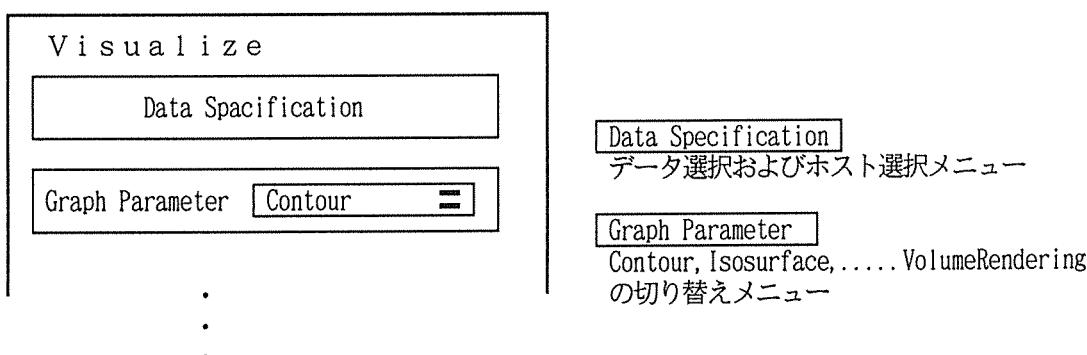
ローカル操作とはウィンドウ上に描画された図形に対して拡大、縮小、視点位置、光源、位置などをマウス操作により変更できる。

【参考4】 ボリュームレンダリング

これはSX-3とのクライアントサーバ型でしか描画が行われない。(Only X単体での利用では選択出来ない。)

4-1-1. 描画手順

SXview形式のサンプルデータ(/sxview/data/sample.*)を使用して等値面図の表示手順を簡単に紹介する。Visualize選択時は次ぎのメニューとなる。



(1) 解析データの読み込み (Data Specification)

[Data Specification] をクリックすると次のデータ選択メニューとなる。

Data Specification	
File Loader	SXview/GWS
Data Format	SXview
Mesh File	<input type="text"/>
Scaler Fil	<input type="text"/>
Vector Fil	<input type="text"/>
Time File	<input type="text"/>
<input type="button" value="Set Drawing Scene No"/>	

⋮
⋮

<input type="button" value="DataLoad"/>	<input type="button" value="Close"/>	<input type="button" value="Undo"/>
<input type="button" value="Exit"/>	<input type="button" value="ParamSave"/>	<input type="button" value="ParamLoad"/>

- ① File Loader は変更の必要はない。
- ② Data Format は変更の必要はない。
- ③ Mesh File, ..., Time Fileではつぎのサンプルデータファイルを指定する。

Mesh File	/sxview/data/sample.msh
Scaler File	/sxview/data/sample.dat
Vector File	/sxview/data/sample.dat
Time File	/sxview/data/sample.tim
- ④ Set Drawing Sceneno はここでは何も指定しない。
- ⑤ [DataLoad] をクリックしデータのロードをおこなう
サブメニュー表示領域でDone表示を確認。
- ⑥ [Close] をクリックし、Data Specificationを終了させる。これで、前画面に戻る。

【参考】

一度読み込んだ解析データは、他の描画方法（等値線図、ベクトル図、リボン図等）にも利用できるので
描画方法を変更するたびに解析データを読み込ませる必要はない。

(2) 描画方法の指定と描画

Visualize	
<input type="button" value="Data Specification"/>	
Graph Parameter	Contour <input type="button" value="≡"/>
Contour	<input button"="" type="button" value="≡"/>
Number of Contours	<input type="text" value="255"/>
⋮	⋮
<input type="button" value="Draw"/>	<input type="button" value="Stop"/>
<input type="button" value="Exit"/>	<input type="button" value="ParamSave"/>
<input type="button" value="ParamLoad"/>	

- ① Graph Parameter 右横のボックス内にカーソルを移動しクリックするとつぎのメニューとなる。

Graph Parameter	Contour
	Isosurface
	Vector
	Streamline
	ParticleAdvection
	FlowRibbon
- ② ここでは Isosurface を選択する
- ③ [Draw] をクリックすると次図が描画される

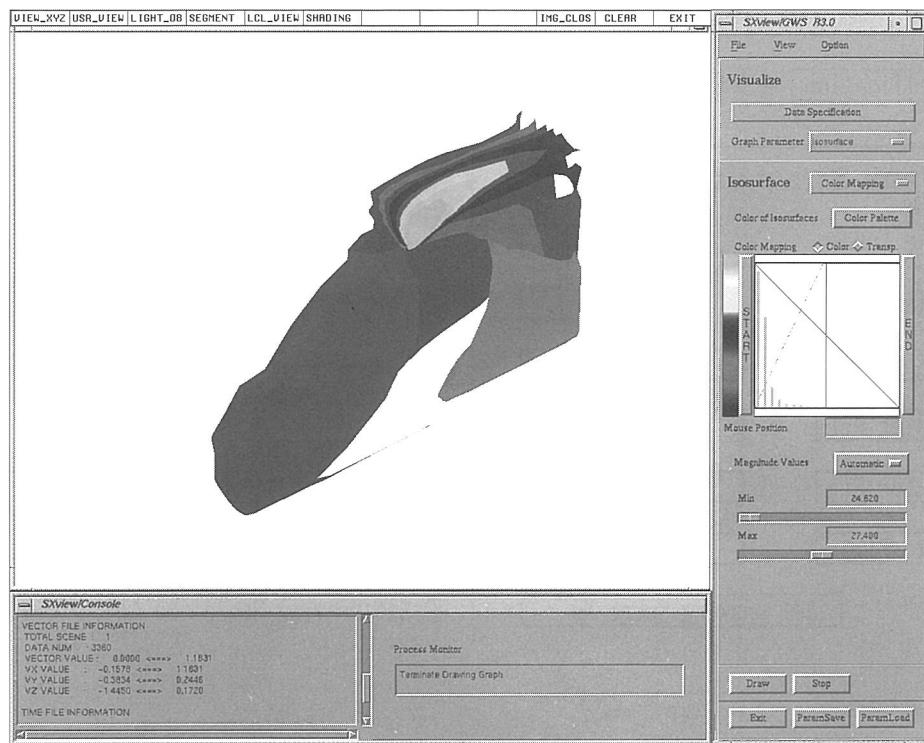


図2. Isosurfaceのサンプル表示

このサンプル図は、天井に吹き出し口のある室内空調装置から、送風した場合の室内への広がり具合を解析したものである。

【参考】

描画した図の消去方法は以下の手順である。

1. ファンクションキーメニューの **SEGMENT** をクリック

SEGMENT	
SURFOO	1020 DELETE
guide axis	

2. **SURFOO 1020 DELETE** をクリック

SEGMENT	
SURFOO	1020 DELETE
guide axis	DELETE
box cursor	SURF
	WIRE

3. **DELETE** をクリック

【参考】

Isosurface以外で表示したい場合

1. VisualizeのGraph parameterで他の描画方法を選択し **Draw** をクリック

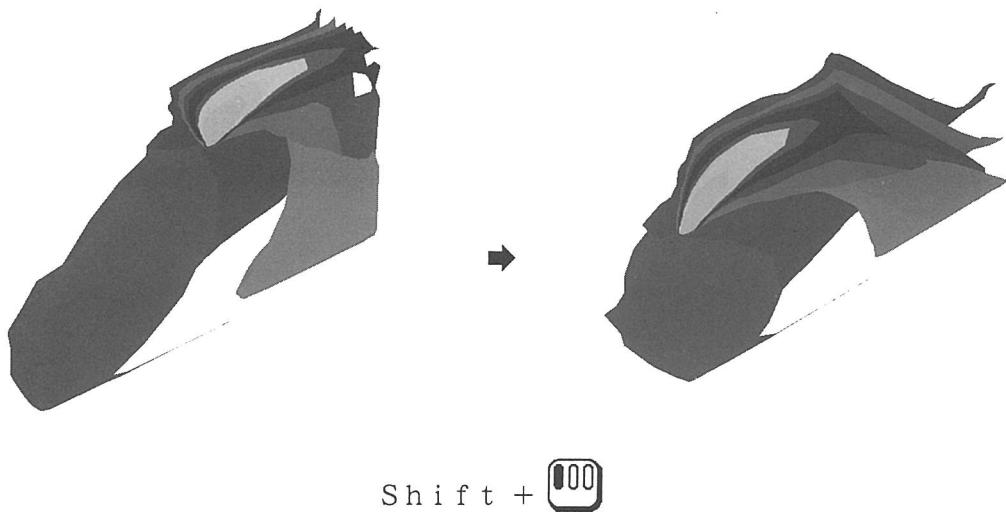
(3) ローカル操作

ここで描画された図はローカル操作が行える。

ローカル操作は投影面座標系（V R C）原点を中心として、物体を包み込むような透明な球面を想定し観測者はこの球面の上に乗って常にV R C原点を見ていると考える。

(3-1) 回転

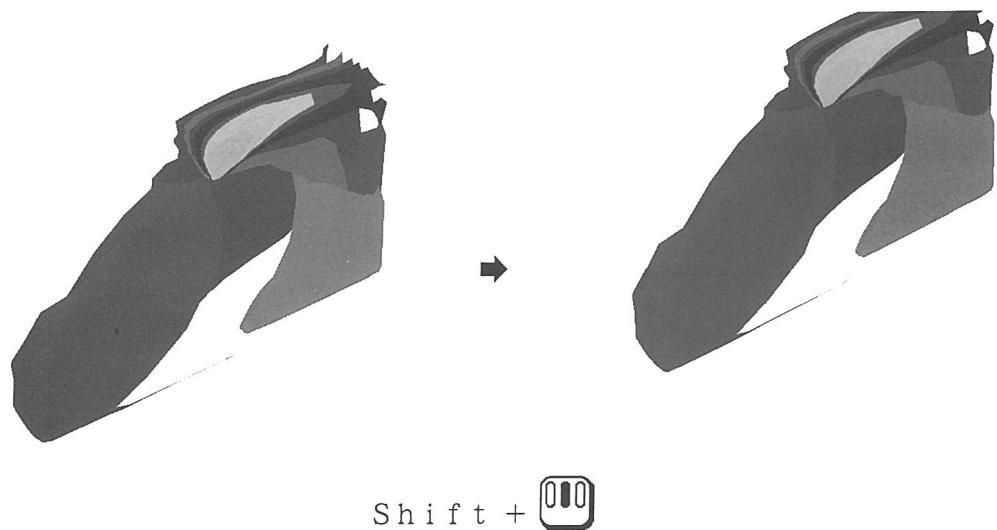
S h i f t キーとマウス左ボタンを同時に押しながらマウスを動かす。



※マウスを左から右へ動かすと視線が物体の右側に回り込む。下から上に動かすと物体の上側に回り込む。

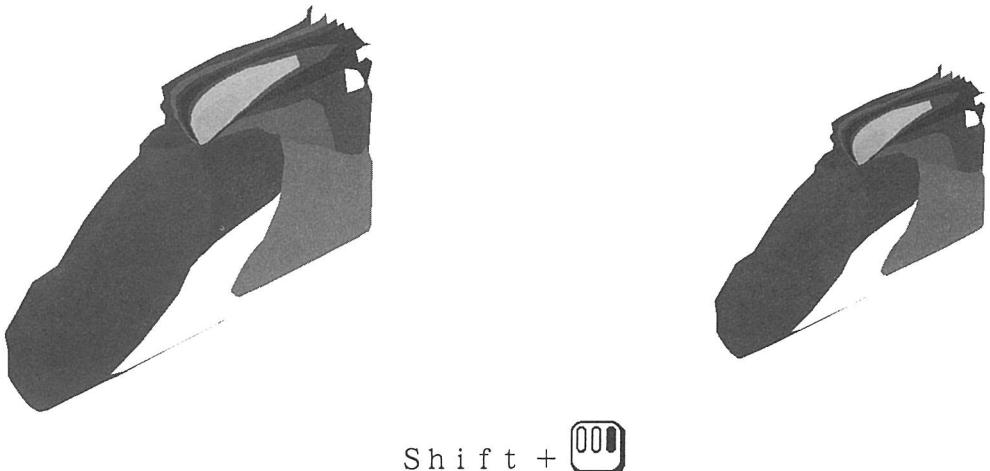
(3-2) 移動

S h i f t キーとマウス中央ボタンを同時に押しながらマウスを動かすことにより、視線方向を保ったままV R C原点が移動する。



(3-3) ズームイン、ズームアウト

Shiftキーとマウスの右ボタンを同時に押しながらマウスを動かすことにより物体の拡大、縮小を行う。



※ 拡大：マウスを上または右へ動かす

縮小：マウスを左または下へ動かす

4-2. Animation

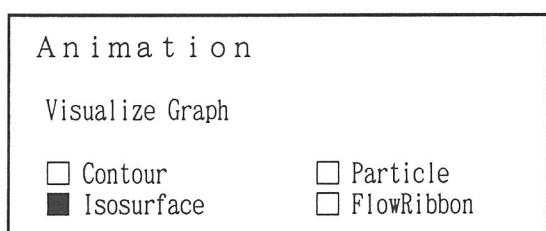
本機能はVisualizeでシステムに取り込まれた解析データを用いてアニメーションを行う。

4-2-1. 操作手順

ここでは、4-1でシステムに取り込まれた解析データを用い等値面図を表示しアニメーション機能を簡単に紹介する。

① 機能選択メニューの [View] で [Animation] を選択すると次のアニメーションメニューとなる。

(1) 描画方法の指定 (Visualize Graph)



① ここでは [Isosurface] をクリック

【参考】

- ・描画方法の指定で、等値線図、等値面図、ベクトル図、流線図は同時選択（描画）が可能。
- ・等値線図、等値面図、ベクトル図、流線図のどれかが1つでも選択されると粒子追跡図、リボン図、ボリュームレンダリング図は選択不可となる。
- ・粒子追跡図、リボン図、ボリュームレンダリング図は他の描画方法と同時選択（描画）が出来ない。これらの描画方法が選択されると選択した描画方法以外は選択出来ない。

(2) カメラワークの設定

以下の例では次のような条件でカメラワークを設定することにする。

- ・総フレーム数は36フレームとする。
- ・1～15フレームまで下記条件でカメラワークを設定する。

平行移動	:	縦、横への平行移動なし
回転	:	Z座標を軸とし回転
ズーム	:	ズームイン、ズームアウトは行わない。
- ・16～36フレームまで下記条件でカメラワークを設定する。

平行移動	:	縦、横への平行移動なし
回転	:	Y座標を軸とし回転
ズーム	:	ズームアウト

また、カメラワーク変位量は次のように設定することにする。

平行移動(Move)	:	X方向平行移動量	:	0
		Y方向平行移動量	:	0
回転 (Rotate)	:	X軸回転量	:	0
		Y軸回転量	:	-6
		Z軸回転量	:	9
ズーム (Zoom)	:	ズーム量	:	5

※ 回転の変位量は、3の倍数でなければならない。

① "Animation Control" の [Camera Work Animation] をクリックするとカメラワーク設定メニューとなる。

カメラワーク設定メニュー

Set Camera Work				
Total Frames	36	<input type="button" value="▲"/>	<input type="button" value="▼"/>	
<input type="button" value="Set Transformation"/>				

① カメラワーク変位量を設定するために
[Set Transformation] をクリックする。

カメラワーク変位量設定メニュー

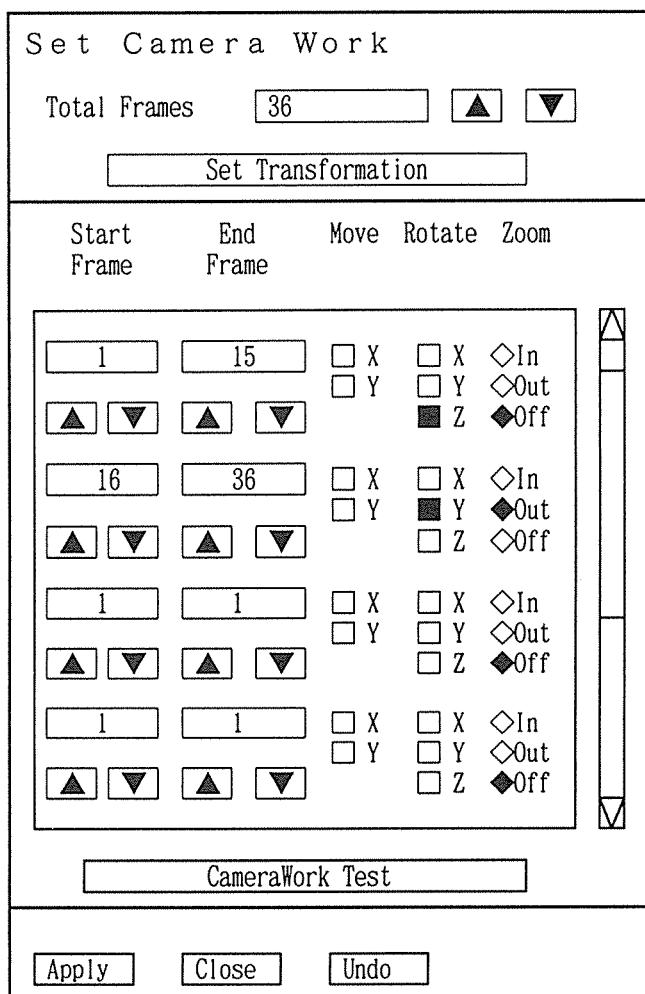
Set Transformation				
Move				
X	<input type="text" value="000"/>	<input type="text" value="0"/>		
Y	<input type="text" value="000"/>	<input type="text" value="0"/>		
Rotate				
X	<input type="text" value="000"/>	<input type="text" value="0"/>		
Y	<input type="text" value="000"/>	<input type="text" value="-6"/>		
Z	<input type="text" value="000"/>	<input type="text" value="9"/>		
Zoom				
Fct	<input type="text" value="000"/>	<input type="text" value="5"/>		
<input type="button" value="Apply"/> <input type="button" value="Close"/> <input type="button" value="Undo"/>				

Move はX、Yとも"0"指定。

Rotateは以下のように指定。

- ① Y軸の変位量
 上でマウスをドラッグし"-6"にする。
- ② Z軸の変位量とズーム変位量
同じように をドラッグし"9"にする。
- ③ Zoom を"5"にする。
- ④ をクリック
- ⑤ をクリックし
Set Transformationの終了をおこない
カメラワーク設定メニューに戻す。

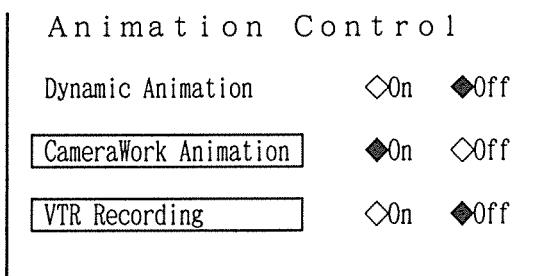
カメラワーク設定メニュー



- ① 1～15フレームは平行方向の移動は無しとするのでMoveでX, Yにはマークしない。
Z座標で回転させるのでRotateではZをマーク
ズームはしないのでZoomはOFFとする。
- ② 16～36フレームはY座標で回転しズームアウトする。
- ③ 設定が終了すれば をクリックし更新する。
- ④ をクリック

(3) Animation Controlの設定

アニメーションメニュー上の "Animation Control" をつぎのように設定する。



- ① Dynamic Animation
描画方法で粒子追跡図またはリボン図を指定していない場合は、Offとする。
- ② CameraWork Animation
Onにする。
- ③ VTR Recording
ここではOffとする。

(4) 描画の開始

をクリックすることによりアニメーションの描画が開始される。

4-3. Image

本機能はSXviewライブラリによって作成された図形のイメージデータファイルを描画するものである。

表示できるイメージファイルには以下のものがある。

IMFファイル	: フレームサイズが同じ複数シーンの画像を保存したファイル。 ファイル名は"~.imf**"という形式で、"~"は任意の文字列であり、".imf**"はIMFファイルを示す拡張子である。拡張子の"**"は00~15の16通りの2ケタの数字である。
ISVファイル	: 単シーンのみの画像を保存したファイル。 ファイル名は"~.isv"という形式で、"~"は任意の文字列であり、".isv"はISVファイルを示す拡張子である。

4-3-1. 描画手順

サンプルのイメージファイル(/sxview/imf/sample.imf00)を使用して描画方法を簡単に紹介する。

- ① 機能選択メニュー [View] で、 [Image] を選択。

IMF表示メニュー

Image Data Handler	
Operation	Display IMF
Host Machine	◇SX-3 ◆GWS
IMF File	[]
Inquire	
Output Device	◇UFB ◆GWS
VTR Recording	◇On ◆Off
Display Position	Center
X	[]
Y	[]
Start Scene	[]
End Scene	[]
Skip Scene	[]
Display Speed	[]
Exec	Stop

- ① Operation
Operation枠をクリックすると機能切り替えのプルダウンメニューとなる。
- | | |
|---------------|----------------|
| Display IMF | : IMFファイルの表示 |
| Display ISV | : ISVファイルの表示 |
| Archive ISV | : ISVファイルへの保存 |
| Trans ISV→IMF | : ISVからIMFへの変換 |
- ここでは、 [Display IMF] をクリック
- ② Host Machine では、 GWSをクリック
- ③ IMF Fileでは [sxview/imf/sample.imf00] とする
- ④ Output Deviceでは、表示装置はOnyxのモニターであるため GWSをクリック
- ⑤ Display Positionでは表示位置が指定出来る。
ここではCenterとする。
- ⑥ Start Scene, End Scene, Skip Scene はIMFファイルが複数シーンある場合に有効であるが、このサンプルでは1シーンしかないので全て1とする。
- ⑦ Display Speedについても表示する速度の指定がおこなえるが、このサンプルでは意味が無いので1とする。
- ⑧ [Exec] をクリックすると別ウインドウに描画される。

- ② イメージファイル表示ウインドウの消去
表示されたウインドウを消去するにはファンクションキーメニューの [IMG_CLOS] をクリックする。

4-4. Client

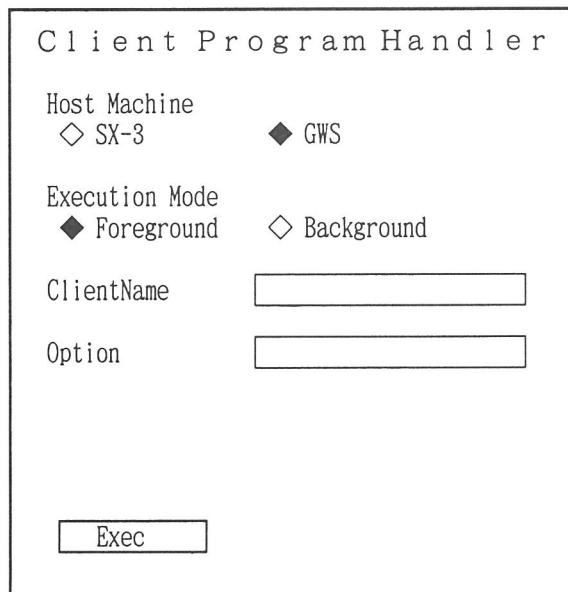
本機能はSXviewライブラリを使用した図形描画プログラムを実行するものである。

4-4-1. 描画手順

SXviewライブラリを使用した描画サンプルプログラム(/sxview/example配下の実行モジュール)の実行方法を簡単に説明する。

- ① 機能選択メニュー [View] で [Client] を選択する。

クライアントプログラム操作メニュー



- ① Host Machine には実行モジュールが格納されているマシンを指定する。ここでは"GWS"を指定する。
- ② Execution Mode ではプログラムをフォアグラウンドまたはバックグラウンドのいずれかで実行するかを指定。このサンプルでは"foreground"を指定。
- ③ Client Name では実行するプログラムのファイル名を指定。ここでは `/sxview/example/streakline` とする。
- ④ Option ではキーボード入力によるプログラムの起動オプションを指定。ここでは必要無い。
- ⑤ [Exec] をクリックすると描画が開始される。

① 画面消去

描画が終了するとこのプログラムでは、グラフィックサーバ・ウインドウ内でリターンキーを入力することにより画面消去される。

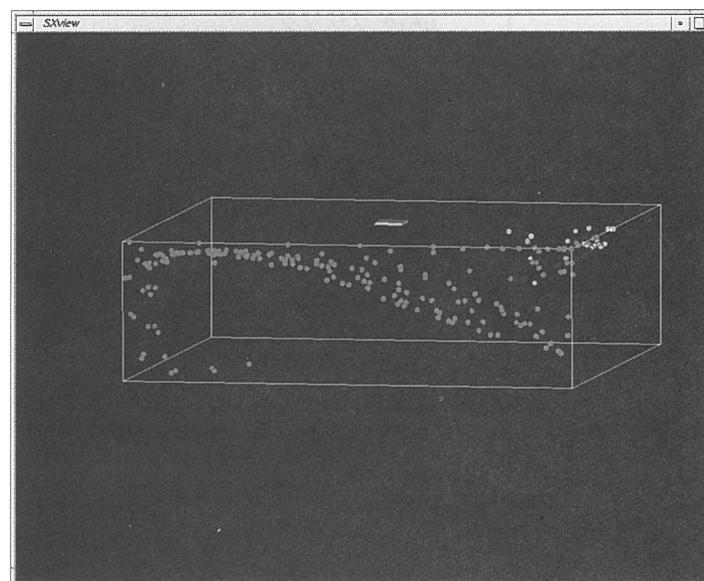


図3. Clientのサンプル表示

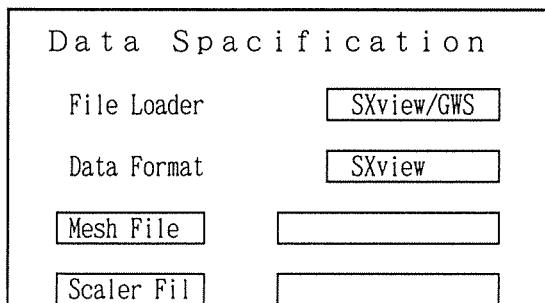
【参考】

/sxview/example 配下にはここで実行した"streakline"の他にもいくつかのサンプルがある。拡張子になにも付いていないファイルがそれである。例えば、ribbon, vector等。

5. ファイルブラウザ

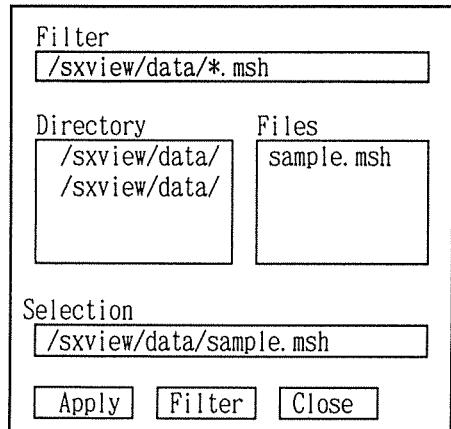
ファイルブラウザは各メニューのファイル名入力や環境設定ファイル名の入力をおこなう場合、起動することが出来る。

例えば、4-1. "Visualize" の "Data Specification" で、ファイル名入力をファイルブラウザによっておこなう場合を以下に示す。



- ① [Mesh File] 内でクリックする。

ファイルブラウザメニュー



- ① Filter ではキーボード入力により指定する。
フィルタはディレクトリと拡張子の指定を行う為のものである
- ② Directories では一覧の中のディレクトリをクリックすることによりフィルタで指定するディレクトリを選択する
- ③ Files では一覧の中のファイルをクリックすることによりセレクションで指定するファイルを選択する
- ④ Selection では現在指定されているパス名を表示する。
- ⑤ Apply をクリックするとセレクションに表示されているパス名が確定する。
- ⑥ Filter をクリックするとファイル選択用のフィルタが確定される
- ⑦ Close をクリックするとファイルブラウザの終了

- ② 同じように [Scaler fil] 内をクリックすればファイルブラウザが使用出来る。

6. ファイル形式変換

GWSで作成した画像データはISV形式またはIMF形式となる。これを他の形式例えばTIFF形式やSGI形式に変換したいという要望があるものと思う。しかし今のところGWS上の画面操作による直接変換機能は無いが、ISV形式またはIMF形式からTIFF形式またはSGI形式に変換するためのコマンドが用意されているので、ここでは変換の操作手順について説明を行う。

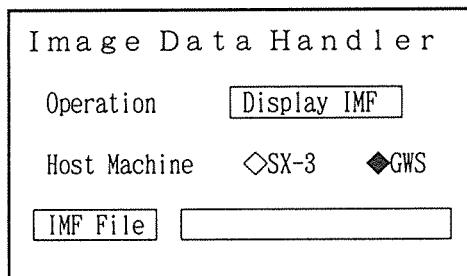
6-1. ISV形式、IMF形式ファイルへの保存

"4-3. Image"で簡単に説明したように、ISV形式は単シーンのみの画像ファイルでありIMF形式ファイルは複数シーンの画像ファイルである。

ここでの例では4-1.で説明した単シーンの画像をISV形式で保存する操作について説明をする。

- (1) "4-1. Visualize" の画像が描画されている時点で、機能選択メニューの [View] で [Image] を選択。

IMF表示メニュー



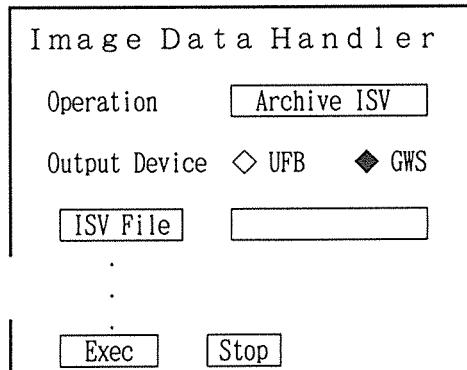
- ① 機能切り替え
Operation枠をクリックすると機能切り替えのプルダウンメニューとなる。

Display IMF	: IMFファイルの表示
Display ISV	: ISVファイルの表示
Archive ISV	: ISVファイルへの保存
Trans ISV→IMF	: ISVからIMFへの変換

ここでは、[Archive ISV] をクリック

- (2) これにより、次のISV保存メニューとなる。

ISV保存メニュー



- ① Output Device では
UFB(Ultra net Frame Buffer)とGWSのどちらの画面を保存
するかを指定。ここではGWSとする。
② ISV File は任意のファイル名を指定。拡張子にはisvを付ける
例
ISV File /usr1/a61234a/GWS/sample.isv
③ [Exec] をクリックする。

【参考】

[ISV File] をクリックすればファイルブラウザによるファイル名入力が行える。

6-2. imgconvコマンド

ISV形式またはIMF形式の画像ファイルをSGI形式またはTIFF形式に変換を行うコマンドである。
このimgconvコマンドは、ccews01またはccsx3上で使用が可能である。

6-2-1. コマンド形式

- (1) ISVファイルの場合

```
imgconv ISVファイル名 [-f 出力先ファイル名] [-t tiff または -t sgi]
```

(2) IMFファイルの場合

imgconv IMFファイル名 [-f 出力先ファイル名] -s 開始シーン番号[終了シーン番号] [-t tiff または -t sgi]

-f 出力ファイル名 : このオプションを省略した場合はファイルの拡張子は以下のようになる。

SGIフォーマットに変換した場合 : .rgb
TIFFフォーマットに変換した場合: .tif

-t tiff または : 変換後のファイル形式を指定。省略時はTIFF形式となる。

-t sgi

-s 開始シーン番号[終了シーン番号]

: 変換対象ファイルがIMF形式の場合に有効。

開始シーン番号から終了シーン番号までの画像データを変換対象とし変換後のファイル名には
拡張子の前にシーン番号が付加される。また、終了シーン番号を表す記号として" \$"
が使用出来る。

本オプションを省略した場合や、終了シーン番号を省略した場合には第1シーンのみが
変換される。

6-2-2. 使用例

コマンド	生成されるファイル名
• ccews01% imgconv sample.isv	sample.tif
• ccews01% imgconv sample.isv -t sgi	sample.rgb
• ccews01% imgconv sample.imf05	sample01.tif
• ccews01% imgconv sample.imf05 -f image -s 1 10	image01.tif - image10.tif

おわりに

GWS使用中に障害が発生した場合、マニュアル“SXview/GWS利用の手引き”の第8章トラブルシ
ューティングをご覧いただきたい。

本説明で紹介したサンプルファイルは全てcconyx01上に存在する。SXviewライブラリを利用したプログラ
ミングをおこなう場合は、cconyx01の “/sxview/example” ディレクトリ配下、および “/sxview/sample” ディレ
クトリ配下のサンプルプログラムを参考にしていただきたい。